



## ネマキック粒剤で 「見た目が良く滑らかな肌」 好結果に手ごたえ」

茨城県行方市 **箕輪秋雄さん** <かんしょ甘藷>

2014年



市場ニーズにきめ細かく応じた甘藷(かんしょ)を生産する茨城県JAなめがた。芋のでんぷん含有量を畑ごとに見極めて収穫・出荷時期を調整したり、長期保存のための最新施設を整備して通年出荷を実現するなど、高品質と安定供給で全国屈指のブランド産地を確立している。

約10ヘクタールで「紅こがね」「べにまさり」「紅優甘(ゆうか)」の3品種を栽培する箕輪秋雄さん(取材当時60)は、品質や収量の低下を招く線虫防除の一環として、「ネマキック粒剤」を導入した。

「甘藷の栽培では、線虫対策が一番の課題」と強調する箕輪さん。線虫に寄生された芋は、生育不良のほか、表面の毛穴部分のくぼみが増えて見た目を悪くしたり、ひどい場合はひび割れたりするなど商品価値を大きく損ねるためだ。

そんな箕輪さんは、他の部会員から**「ネマキック粒剤」の評判を聞きつけ、試験的に10アールで導入した。「ネマキック粒剤を処理した畑では、毛穴のくぼみも目立たずきれいな肌の芋ができた」と好結果に手ごたえを感じた。**

箕輪さんは例年、植え付前に粒状線虫防除剤及び土壌くん蒸剤を処理している。収穫は8月下旬から始め、3品種合わせて約300トンを出荷する。

箕輪さんは粒状線虫防除剤をローテーションしたり、処理後の耕うんを2~3回行い深く均一にするなどベストな処理方法や時期を常に考えている。「ネマキック粒剤は甘藷での使用量15~50kg/10aなので線虫が集まりやすい場所に多く処理するなど工夫が出来る。今後は使用面積を増やし栽培する3品種に使用していきたい」と意欲的だ。

